稲作情報

令和4年3月25日

健苗育成で良食味米生産スタート！！

本年は、平年よりも積雪量が多い状況です。今後の天候や消雪状況に応じた春作業を計画して、早めに事前準備をしましょう！

1 育苗計画

○3月20日現在の消雪予報は、小出で4月14日、入広瀬で4月19日です。
○育苗予定地の消雪が遅れる場合は、機械除雪を行うなど早めに対策を取りましょう。
○適期に健苗が移植できるよう、品種や標高、作付規模に応じた育苗計画を立てましょう。
（コシヒカリの場合：平坦地では5月20日～25日、山間地は5月中旬に移植しましょう）
○は種時期を遅らせると、気温上昇により育苗日数が短くなります。老化苗にならないよう、育苗計画を立てましょう。

＜は種時期・田植時期の目安＞稚苗加温育苗

	標高の低い地域	標高の高い地域
は種時期	5月上旬	4月下旬
田植時期	5月20日～25日	5月中旬

2 種子予措

（1）種子消毒
○温湯消毒のみでは防除効果が不十分なため、必ず「温湯消毒＋生物農薬」の体系防除を実施しましょう。
○消毒後の乾燥は、日の当たらない風通しの良いところで行いましょう。

（2）浸種
○発芽揃いを良くするため、通常は水温10℃～15℃、積算水温100℃を目安としましょう。特に、浸種初期の低水温（10℃未満）は、発芽揃いを悪くするので避けましょう。
○令和3年産コシヒカリBL種子の休眠は、前年産並に深いと推定されます。そのため、コシヒカリBLの浸種は、水温12℃、積算水温120℃を目安に行いましょう。
○こしいぶきや新之助の浸種は、水温10℃～15℃、積算水温100℃を目安に行いましょう。

（3）催芽
○催芽温度は30℃で、1～2日を目安としましょう。
○ハト胸状態の籾（図1）が80%程度となったら、終了しましょう。

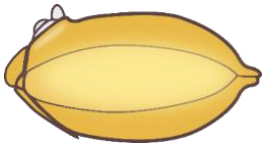

図1　ハト胸状態の籾

3 は種

○播種量は右表を基準とし、健苗を育成しましょう。

育苗様式	播種量(箱当たり)	
	乾籾	催芽籾
稚苗	130～140g	160～175g
中苗	80～100g	100～125g

JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター

4 温度管理

〇温度計を苗の高さに設置し、こまめに適正な温度管理に努めましょう。
〇高温時は、ヤケ苗の危険性が高まります。こまめな換気や遮光率の高い被覆資材を使用し、急激な温度上昇を抑えましょう。
〇低温時や霜注意報発表時は、被覆を行い、苗を守りましょう。
〇こしいぶきは苗丈が伸びにくいので、緑化期間を１日程度長めにしましょう。

【加温出芽における温度管理・処理日数（稚苗）】

育苗段階	終了段階の苗の生育	温度管理（℃）		処理日数（日）
		昼間	夜間	
出芽期	出芽長　0.5～1cm	30	30	2～3
緑化期	第1葉鞘長　3.5cm	20～25	15～18	2～4
硬化期	苗　丈　12cm	15～20	10以上	12～13

5 いもち病防除

〇北魚沼地域は全域いもち病多発生地域です。育苗箱施用剤等による葉いもち防除を徹底しましょう（JA苗は一部を除き防除済みです。）。

6　農作業事故に注意しましょう!

〇毎年、農作業中の死亡事故が全国で300件前後発生しています。
〇農作業事故を防止するため、次のポイントに注意しましょう。

＜農作業安全のポイント＞

〇適度に休憩をとり、ゆとりを持って作業しましょう。
〇農業機械を運転する際は、シートベルトを装着しましょう。
〇斜面、段差、坂道での作業は特に注意しましょう。
〇道路では、道路交通法を遵守し、周りをよく見て走行しましょう。
〇日常点検・始業点検を励行しましょう。
〇農業機械のトラブル・点検時は、必ずエンジンを止めましょう。
〇常に危険がないか周囲に気を配りましょう。
〇熱中症予防のため、こまめな休憩と水分補給をしましょう。

慣れている作業でも危険が伴うことを改めて認識し、安心・安全な農作業を実践しましょう!

不明な点は農協営農センターまたは普及センターまでおたずねください

JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター